



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学



和歌山大学 南紀熊野サテライト 2016年度 事業総括書

2017年3月

和歌山大学 南紀熊野サテライト

はじめに

◆南紀熊野サテライト周年事業を受けて今後の更なる活動を目指す契機の年

和歌山大学南紀熊野サテライトは、2005年4月に「地域型サテライト」として設置後12年が経過した。2016年度は設置からの取り組みを整理し、今後の更なる活動を目指す契機の年となった。地域型サテライトとして、地域からの声を今後の運営に活かすために多方面へのアンケート調査を実施（地域住民、受講者、自治体職員、教員、他大学）。高等教育関連では、地域ニーズを取り上げた授業編成や開設時間を検討し、体系的な地域学の学習機会を継続設置した。地域学から郷土愛を育み、特有の地域資源を保全、活用する活動から、持続可能な次世代の観光経営のあり方を実践的に学ぶ場として「南紀熊野観光塾」を開塾。自治体職員、観光商工業、経営者、地域住民、大学生等多数の参加を得て、地域で中核となる人材を養成している。連携協議会企画委員会にて第三期アクションプランを策定。今後の学内外の連携機会を幅広く展開する為の具体的方策を立案する年となった。本報告書において2016年度事業を総括する。

◆2016年度事業の特長・課題（※特長・課題とも絞り込むため5項目とする）

2016年度の南紀熊野サテライト事業の特長・課題を、箇条書きに纏める

【5つの特長】

①地域学に根ざした授業編成、多様な学習機会を設置

→体系的に学部授業編成を継続設置。紀伊半島の災害や暮らしのリスクと恵みを学ぶ「紀州郷土学」や「地域暮らしの健康学」「地域づくり戦略論」を継続設置。更に広域のニーズに応えるため東牟婁地域の授業・講座の設置準備を進めてきた。次年度より実施。新宮信用金庫、東牟婁振興局、新宮市、那智勝浦町の協力を得て周知広報を実施。新宮信用金庫の社会貢献の一環として授業会場を無償提供、広報や運営支援を頂くことで実現した。

②地域課題（地域の経験知）と、大学研究（専門知）とを繋げた地域貢献

→学内の研究成果を基に南紀熊野サテライト科目として授業化。地域での教育研究活動を学内外へ情報発信して相互理解を深めている。同窓会と連携して研究会を地域実施。最新研究の成果報告会等を公開シンポジウムとして実施。研究者と地域活動の実践者が参加交流する機会となった。

③みらい戦略第三期アクションプランを策定

→10周年事業で実施した自治体、住民、利用者、教員アンケート及び、全国の拠点設置大学へのアンケート調査を元に、連携協議会企画運営会議にて今後の更なる活動を目指す「みらい戦略第三期アクションプラン」を策定した。具体的取り組み16項を設置して地域での更なる活動を目指す。

④自治体・教育委員会・地域との連携協働の推進

→地域づくり・人づくり事業に参画して、地域企画に協力。地域と大学の連携を実施。自治体の地方創生の政策やDMO設置準備等の研修機会等の事業企画を実施。

⑤学内外への広報戦略の拡充 ⇒【※掲載新聞、広報紙は資料集を参照】

→入試、紀南枠新設の掲示、学生制作広報紙の配架やデジタルサイネージ（映像表示装置）の継続設置。HPでの活動紹介の更新回数を増加。新聞、ラジオ等メディアへの情報提供。

【今後の課題】

①教育研究活動による地域発展モデルの構築と更なる連携推進で「知の循環」を目指す。

②学内外の支援組織体制の構築に向けて情報の共有と活用

③サテライトを拠点として、活動する学生、同窓会組織、小中高大等の連携推進

④地域で活動する学生の交流機会に貢献

⑤サテライトの学内外への認知度向上のための戦略的な広報活動

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2016年度

目 次

1、はじめに

南紀熊野サテライト 2016年度の事業概要と課題	1
--------------------------	---

2、具体的活動成果・事業実施状況

【1】 高等教育部門／授業実施状況／主催講座関係	3
【2】 生涯学習部門／高大連携部門	17
【3】 地域研究／本学授業講義支援／学生、同窓会活動支援	17
【4】 地域連携／産学官連携部門／地域からの相談／広報活動	21
【5】 本学防災対策本部分室の活動	23
【6】 運営基盤の強化／視察受入、研修参加等	24

3、あしがき	28
--------	----

4、参考資料（ 広報チラシ一覧、新聞掲載資料一覧 ）

【1】 高等教育部門／授業実施状況／主催講座関係

1-1 高等教育（大学院・学部授業）関係

大学院受講者5科目延べ22名（修士課程含）、学部受講者4科目延べ97名（高校連携含）合計119名

※備考：南紀熊野サテライト修士課程研究指導1名、学部申請者：前年度比34名増加

《平成28年度 南紀熊野サテライト受講生申請状況一覧》

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	修士課程	高校生	
大学院	前期	地域プロデュース特論	木川 剛志	観光学部	3	(1)	/	3
		オトナのスポーツのススメ	彦次 桂	教育学部	3	(1)		3
		借地借家法と現代社会	吉田 雅章	経済学部	8	(1)		8
	後期	社会と情報通信システム	宮本、他4名	シス工学部	4	(1)		4
		現代中国経済特殊問題	金澤 孝彰	経済学部	4	(1)		4
					合計			22

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	本学より	高校生	
学部	前期	紀州郷土学2C	出口、藤田、他	オムニバス	15	0	0	15
		地域暮らしの健康学B	藤永、ゲスト他	オムニバス	9	1	0	9
	後期	紀州郷土学2D	出口、竹林、他	オムニバス	18	0	1	18
		地域づくり戦略論B	藤田、他14名	オムニバス	44	24	0	44
		地域暮らしの健康学C	藤永、山本、他	オムニバス	11	1	0	11
					合計			97

※オムニバス（学部複合での開催の意味）

総合計	119
-----	-----



大学院授業の様子



学部開放授業の様子

《実施概要》 ※特徴的なものを赤字表記する。

①大学院科目の概要

《フィールドワークを取り入れた地域型の授業を実施》

教室での座学だけでなく、地域の実践者への聞き取りや現地での視察調査を実施するなど学習を深めた。

「借地借家法と現代社会」では、地域課題となっている**さびれゆく商店街・空き家・耕作放棄地や相続問題**などを取り上げて、借地借家法が抱えている問題を指摘しながら受講者と話し合い、近年の借地借家法について理解を深めた。また、「地域プロデュース特論」では、**地域における潜在的魅力をどのように「見える化」**

するのかを「映画」を取り上げて解説。地域で黙認的に継承されている潜在的魅力を探索できる目を育成し、これらを表現するプロセスを理解して実質的なプロデュースを学んだ。

「オトナのスポーツのススメ～ジェロントロジースポーツ入門～」ではフィールドワークを取り入れ、白浜町円月島付近でのシーカヤックでの演習を実施。円月島付近を一周し、番所山公園下の浜に上陸。2時間のシーカヤック演習を実施。演習に際して地域の方（グラスボート、和歌山南漁業協同組合、アクアマリン白浜、ミスオーシャン、シーマンズビーチ）に協力いただいた。本学地学の教員も同行して紀伊半島の地質、ジオパーク活動を事例に和歌山が保有するすばらしい自然環境を体感し、その形成や特徴、生涯スポーツにおけるガイドに必要な要素や、近年の成人期以降のスポーツの多様な楽しみ方と実施による課題や可能性について理解を深めた。



大学院授業でのシーカヤック演習の様子（教育学部生3名もサポート）

②学部科目の概要

《総合的・体系的な学びの機会に、2年間の継続授業科目として設置》

地域ニーズを反映した授業編成で体系的な学びの機会として設置。南紀熊野地域の諸課題に対する地域ニーズの高い内容について、学内研究の成果の地域還元として授業に編成して開講。

前期2科目、後期3科目の計5科目で編成。前期・後期と継続して受講した者へ「修了証」を発行するなど継続受講を推奨した取り組みも実施。体系立てた授業編成と修了証発行により、継続受講数が増加した。また、県教育委員会との連携により実施している「高校生を対象とした大学授業の公開」事業により、高校生の他、和歌山大学生、地域住民が地域の同じ教室で大学の講義を受ける機会となっている。

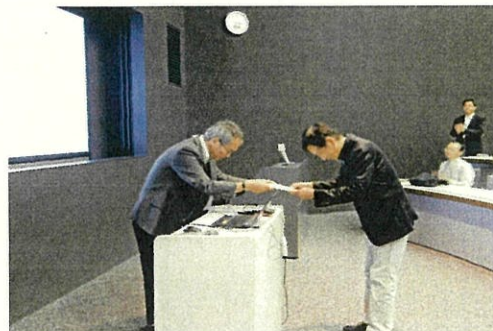
「紀州郷土学2C～紀伊半島の地域産業を学ぶ～」 「紀州郷土学2D～地域資源の発掘と活用～」では、昨年度2A、2Bで学んだ紀伊半島の豊かな風土地形が生み出した自然の恵みと、歴史文化からなる独自紀南地域の独自の産業を学びそれらを発信する手法として「ローカルウィキ」を解説。PC操作を大学生がサポートしながら地元高校生や地元ガイド、住民からなる受講生が地域毎にチームを作りインターネットページを作成して世界に発信した。参加した大学生も、授業の中で、地域で学び田辺祭の記事を作成した現地報告会をお世話になった地域の方を招いて実施した。

心と体の健康をテーマに編成した「地域暮らしの健康学 B～サイクルマップをつくろう～」、「地域暮らしの健康学 C～心の健康（メンタルヘルス）～」では、今紀伊半島で取り組みが各地で進みつつあるサイクリングマップを、「ルートラボ」という高低差や距離が自動計算されるソフトを用いて作成する手法を身につけた。後半の心の健康（メンタルヘルス）では対人心理学や学校現場での児童心理を学んだ。

「地域づくり戦略論 B」(公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団寄附講義)は、5年間設置予定の寄附講義で、実践者を招き、地方創生における農山村の再生手法として注目を集める都市農村交流によるホスピタリティ人材の育成をテーマに掲げて理論と実践から**農山村における地域づくり**戦略を学んでいる。授業では、受講者における地域での学びの質的变化やキャリア形成に与える影響の教育効果も検証アンケート調査も実施されている。今年度3年目の実施となる。中間報告では、受講した大学生の地域での**新規就農**や**地域での就業**に繋がっていると報告があり**優良な評価**を得て継続設置となっている。



地域づくり戦略論の授業の様子 (大学生 20 名、社会人 20 名)



継続受講者へ修了証授与式の様子

「地域暮らしの健康学 B～サイクリングマップをつくろう～」では、健康的な地域暮らしのため、地域の魅力を広く内外に伝えるための**サイクリングマップ**を実際に作り、その活用方法や期待される効果を考察した。マップ制作の先駆的な取り組み、ノウハウを学ぶために実際にガイドの方とサイクリングを体験。粉河ふるさとセンターに集合して川沿い 30 km を走った。車ではなく自転車で見るときの交通量や走りやすさなど必要な要素も紹介いただき走行した。その後、ゲスト講師に紀の川サイクリングクラブ井口和彦氏、和歌山市役所西林孝紘氏を招いてマップ作製「ルートラボ」というソフトを使って、実際に各数カ所(サテライト周辺、上富田、田辺市、白浜町など)地域を選定して、サイクリングマップの企画・制作を実施。サイクリングマップの機能、構成、可能性などについて学んだ。



サイクリング実習の様子 (紀の川地域)



ルートラボでサイクリングマップを作成する受講者

7月16日は、サイクルライフナビゲーターの絹代さんを迎えて『サイクリングカフェ』を実施。前日には白浜町での二次交通や、近年準備が進められているサイクリングについて白浜観光協会事務長尾崎氏と意見交換を行った。また、ゲスト講師に環境省近畿地方環境事務所田辺自然保護官事務所の岩野公美氏と都築真子氏にお越しいただき、吉野熊野国立公園「よしくま」と題して国立公園の楽しみ方を紹介いただいた。



ゲスト講師の環境省自然保護官



白浜町でのサイクリング活用とマップ制作の意見交換

1-2 主催講座・主催研修会関係

《和歌山県での実践的な観光の学びの講座、講演会を開催》

南紀熊野サテライト連携協議会主催の公開講座&受講生募集説明会を、夏季と冬季に実施した。東牟婁地域で授業開講することに併せて新宮信用金庫にてオープンキャンパスセミナーを実施した。また、和歌山大学観光学部の教員と連携し西牟婁地域（白浜町他）、東牟婁地域（古座川町）にて南紀熊野観光塾を開催。その他、授業終了後の夕方に若年層も参加できる「サイエンスカフェ」を館内や市街地のカフェで実施している。昨年度、好評を得た獅子舞カフェⅡでは、祭り本番の神社の境内にて、講師が解説し観光塾終了生がガイドとしてツアー企画するなど発展的な内容にて開催した。

①南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《H28年度後期 公開講座&受講生募集説明会》

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会

開催日：平成28年8月28日（日）13時30分～16時00分 参加約30名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

内容：記念講演1「爆買い現象から中国をとらえてみる」

講演者：金澤 孝彰 教授（和歌山大学経済学部）

記念講演2「LocalWiki（ローカルウィキ）でまちを編集しよう」

講演者：東京大学大学院情報学環・学際情報学府田中秀幸教授（専門:ネットワーク経済論）

和歌山大学産学連携研究支援センター杉山幹夫 教育研究アドバイザー

（LocalWiki Organization Japan 代表）

講演内容：持続可能な地域経営とは何か。地域資源の発掘と活用を促進する戦略を学ぶとともに、それら地域の魅力をインターネット上のデジタルデータで編集する方法を紹介した。



経済学部金澤教授の講演の様子



田辺市での取り組み事例からローカルウィキを紹介する様子

②南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《H29年度前期 公開講座&受講生募集説明会》…田辺会場

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」

開催日：平成29年3月5日（日）14時30分～16時00分 参加50名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

内容：「地域暮らしの健康学D ～よく生きるための「心のあり方」～」の授業より

記念講演：「アドラーと森田の心理学」

講師：中島 俊介（北九州市立大学名誉教授 博士（学術）、臨床心理士）

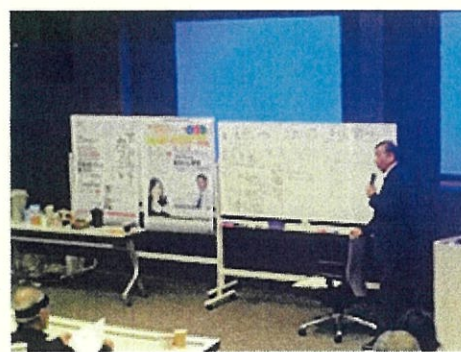
授業説明：藤永 博 教授（和歌山大学経済学部）

継続受講者に修了証を授与：平成28年度前期～平成28年後期 紀州郷土学2C・2D…13名

平成27年度後期～平成28年度前期 地域暮らしの健康学A・B…3名



満席の記念講演会場の様子



アドラーの心理学について紹介する中島先生

《H29年度前期 公開講座&受講生募集説明会》…東牟婁会場（新宮信用金庫5階会議室）

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」

開催日：平成29年3月11日（土）14時00分～16時00分 参加約40名

会場：新宮信用金庫5階会議室（和歌山県新宮市大橋通3丁目1-4）

内容：記念講演1「熊野郷土学A～郷土学からの地域振興～」代表教員久富邦彦教授（教育学部）

記念講演2「熊野を中心に紀伊半島を考えてみよう！Edit your city!」

講演者：和歌山大学産学連携研究支援センター杉山幹夫 教育研究アドバイザー

（LocalWiki Organization Japan 代表）

講師：和歌山大学教育研究アドバイザー 杉山 幹夫 氏

授業説明：久富 邦彦 教授（和歌山大学教育学部）



開講科目を説明する教育学部久富教授



新宮市で初のオープンキャンパスセミナー



和歌山大学に進学希望の地元高校生もオープンセミナーに参加

1-3 サイエンスカフェ関係

《夕方開催！幅広い世代が参加する「サイエンスカフェ」など、多様な学習機会を設置》

受講ニーズアンケートから、「気軽に参加できる講座」「夕方仕事終わりに参加できる講座」をしてほしいとの声が多かったため、堅苦しい講演会のスタイルではなく、お茶を飲みながら参加者と研究者が語る場として、自由に質問できる手軽さから毎回定員を超える参加者を得てきた。専門家による話題提供の後、参加者が自由に質問する。会場も会議室ではなく市街地のカフェを利用。高校生も参加する機会になっている。身近に触れるサイエンスを楽しく学べる学習機会として設置。気負いしないサイエンスカフェへの参加経験から、和歌山大学の研究内容やサテライトで開講している大学の講義に関心を持ってもらい、開設の大学院科目や学部開放授業へのステップアップ受講にも繋がっている。今年は参加者の要望を受けて、前年度好評だった「獅子舞カフェ」を野外で実施。祭り本番の境内で実際に和歌山県無形文化財の獅子舞を見ながら、祭礼研究者の説明をインカムで受けながら体感して臨場感のあるサイエンスカフェとなった。

①サイクリングカフェ

講演名：サイクリングカフェ

開催日：平成28年7月16日（土）11時00分～12時30分 参加20名

会場：和歌山県情報交流センタービッグ・ユニー 研修室2 進行ナビゲーター：経済学部 藤永博教授

講演者：絹代さん（英国大学院で身体運動と栄養について学び自転車ロードレースの実業団、日本代表広報スタッフも経験。現在はTV、ラジオ、雑誌に加え、イベントMCや書籍執筆と活躍中）

内容：全国の自転車イベントで活躍する絹代さんをお招きして、自転車の様々な活用法や、生活をより楽しく豊かなものにする自転車の楽しみ方について紹介。美容健康フィットネス、自然環境、自転車の利用環境などについて、カフェ・ランチを楽しみながら一緒に和歌山県内の取組や可能性を語り合った。その後『走りにいきたくなるサイクリングマップ』と題して授業で講義して頂いた。



サイクルナビゲータ絹代さんと進行の藤永教授



自転車を持ち込み解説の様子

②歴史カフェ

講演名：獅子舞カフェⅡ

開催日：平成28年11月23日（祝日）10時00分～15時00分 参加16名

主催：熊野くるとり（南紀熊野観光塾生）、共催：和歌山大学南紀熊野サテライト、口熊野かみとんだガイドの会

費用：4000円（昼食代、保険代、ガイド料、地元特産ひょうたん絵付け和紙貼り体験費用）

会場：上富田町 八上神社（獅子舞見学）、田中神社（散策）、岡創作館（ひょうたん絵付け体験）

講演者：吉村旭輝特任准教授（和歌山大学紀州経済史文化史研究所）、地元ガイド2名

内容：和歌山県内では、様々な場所の特色をもった獅子舞が演じられており、その歴史や特徴、違いを紹介しながら、地域性や現代的な問題を取り上げて語り合った。学部開放授業「紀州郷土学」から、特に受講者関心が高かった題材として「獅子舞カフェ」を実施したところ、地域の後継者問題や、獅子舞のルーツ、舞の意味等に質問が多数寄せられた。様々な地域の獅子舞演者や演奏者が集い、地域間、世代間での交流も生まれた。昨年好評だった獅子舞カフェ参加者からの要望を受けて、今回は祭本番に神社の境内で現地開催。世界遺産追加登録された八上王子跡で行われる八上神社例大祭に参加。南紀熊野観光塾で学んだ塾生で現地ガイドの石丸さんが体験ツアーとして企画して実施。和歌山県無形文化財の岡の獅子舞の見学をメインに地域の産品であるひょうたん栽培の取り組みをしている人々との触れ合い体験メニューを組み合わせた。上富田自慢の地域食材を活用した昼食もオリジナルで企画。祭り料理のふるまいや獅子汁などもあり参加者から上富田町の魅力を味わえたと好評であった。（「くまのあゆお祭弁当」（熊野あゆのソテー、自家製味噌と肝のソースで紀州梅鳥の塩麹漬けと野菜の煮物、さごしの南蛮漬け、上富田米と地元農家家高さんの手作り梅干し、サラダ、上富田のミカン） ※昼食会場：八上神社前、八上農園にて



（左）和歌山大学吉村先生、（中）現地ガイド、（右）南紀熊野観光塾生石丸さん インカムを付けて祭礼を解説



獅子舞カフェの会場の様子（上富田町 八上神社）



和歌山県無形文化財 岡の獅子舞を見学

③アドラーカフェ

講演名：アドラーカフェ

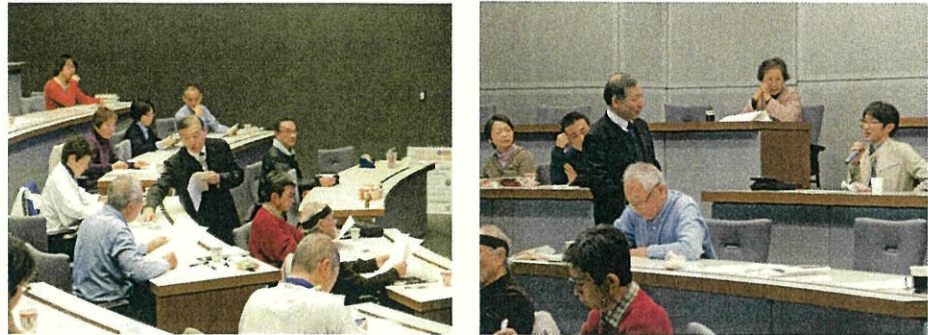
開催日：平成28年3月5日（日）12時30分～13時30分 参加23名

会 場：和歌山県情報交流センタービッグ・ユー 研修室4

講 師：北九州市立大学名誉教授 博士（学術）中島 俊介氏 進行：和歌山大学経済学部 藤永 博 教授

主 催：和歌山大学南紀熊野サテライト

内 容：近年、注目を集めているアドラー心理学は「対人関係の心理学」と呼ばれており、私たちの悩みの8、9割は「人間関係の悩み」だと言われている。フロイト、ユングと並ぶ心理学3大巨人の一人に数えられるアドラー心理学には、現代の複雑な人間関係を生き抜くための適切なコミュニケーションの在り方や感情についての鋭い洞察が見られる。それらのユニークな考え方や面白さを皆でコーヒーを飲みながら楽しく話し合った。



質問に答えながら意見交換する中島教授と参加者の様子

1-4 南紀熊野観光塾

《南紀熊野観光塾第4期を実施》

和歌山県「南紀熊野地域」における、観光産業従事者及び、地域活動者を対象として、「世界のトップレベルの観光ノウハウを各地に広める観光カリスマ」の山田桂一郎さんを塾長に持続可能な地域経営を考えて自主的に取り組む次世代の観光産業のリーダー的存在となる人材育成を行うための塾として開講。塾を通して広域連携の人財交流の輪を広げることで持続可能な地域振興を推進することを期待。「選ばれ続ける地域」をモットーに南紀熊野のあるべき姿をみんなで考え魅力的で持続可能な地域づくりの仕組みを担う中核的な人材を育成している。和歌山大学観光学部生や他大学の学生も参加。

◆南紀熊野観光塾第四期 概要

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト、共催：和歌山大学観光学部、後援：和歌山県

目的：持続可能な地域経営、観光を担う人材養成と塾生同士の繋がりで広域地域の連携を目指す

構成：塾講義及びグループ討議、講評（第四期は、前半に基礎講習、後半に塾生講習と2コースで実施）

①自治体と連携した公開講演会（基礎講習、テーマ講習）（※9月2日、23日実施）

②自治体職員や紹介者を対象にした基礎講習コース（白浜町、上富田町自治体職員に呼びかけ）

③塾生と紹介者を対象にした塾生講習コース（対象は塾生とその紹介者）

◆基礎講習コース 11月10日、11日、24日、25日（※24日、25日は任意参加）

対象：自治体職員等、観光事業者、一般住民（全部の回に参加する意欲のある方）

◆塾生講習コース 11月24日、25日、2月13日、14日

対象：塾生、塾生の紹介者、講師紹介者、学生（全部の回に参加する意欲のある方）

会場：和歌山県内 西牟婁地域、東牟婁地域にて開催

平成28年 11月10日～11月11日（1泊2日）白浜町リヴァージュ・スパひきがわ

11月24日～11月25日（1泊2日）古座川町月野瀬温泉ぼたん荘いろり館

2月13日～2月14日（1泊2日）古座川町月野瀬温泉ぼたん荘いろり館

◆南紀熊野観光塾同窓生生活動報告&交流会

概要：第一期生から第三期生の塾生を対象に交流会を開催。塾後の活動を報告してもらい、今後の活動に繋げる目的で実施。持続可能な地域の観光を考えて、自主的に取り組む次世代の観光産業のリーダー的存在となる人材養成を行うための塾として開講してきた。この塾に参加した塾生の塾終了後の活動を皆で共有し交流会を行った。他大学や地方議員の見学があった。学塾を通して広域連携の人財交流の輪が広がることで持続可能な地域振興を推進することを期待して開催。

日時：平成28年 9月1日（木）16時30分～18時00分

場所：和歌山県田辺市 田辺商工会議所

参加：約30名（第一期生、第二期生、第三期生）

活動報告者（第三期観光塾生）6名…石丸・大石、平見、桜井、大竹、南畑

目的：持続可能な観光を担う人材養成と塾生同士の繋がり広げで広域地域の連携を目指す

内容：三期観光塾生の活動報告と講評（第四期の開催に繋げる）

塾長、講師からの講評の後、塾生意見交換会、場所を変えて懇談会を実施した。



会場の様子（田辺商工会議所）



交流会の様子

◆自治体と連携した公開講演会を実施

①9月2日上富田町講習会、②9月23日DMO白浜設立準備協議会研修会（一般参加可）

開催名称：①上富田地域づくり講習会 参加人数：50名

開催日時：平成28年9月2日（金）13時30分～15時00分

開催場所：上富田町役場 2階大会議室

主催：上富田町 共催：和歌山大学南紀熊野サテライト 南紀熊野観光塾

参加者：スポーツ観光推進協議会メンバー、ガイド、町づくり団体メンバー等、一般参加

実施目的：なぜ観光振興が必要なのか？～地域住民全体の理解と協力のために実施。

表題：「選ばれ続ける地域とは？～上富田町の現状から10年、30年先を考える～」

講習内容：上富田における観光の基本的な考え方、観光による地域づくり等、上富田の現状を知り、10年、30年先の上富田がどうなっているのか？具体的に数字データを示して具体的なイメージを作ることによって地域が直面している危機に気づくことや、着地型観光に取り組むことのメリット、観光地域づくりについて地域力を発揮する仕組み作りについて講演した。

（連携担当者：上富田町企総務政策課平岩氏、上富田町観光コンシェルジュ石丸氏）



講演会の様子



地域住民、自治体職員で満席の会場

開催名称：上富田町地域づくり研修会「魅力ある地域づくりのために」

講師：山田桂一郎先生、場所：上富田町市ノ瀬コミュニティーセンターにて

内容：上富田町や周辺自治体の人口減少の推移を見ながら、人口の世代別の分析結果と今後の姿を説明した。地域コミュニティの維持に地域内の消費行動をして地域にお金循環することや地域の事業者間で経済が循環しながら観光などで入る外貨を増やして雇用や地域の豊かさに繋げることで持続可能な地域経営が可能。会場との意見交換から目的やビジョンを共有して成果を検証することの重要性を解説した。豊かに仕事で活躍するシニアの姿を見て若い移住者が安心して暮らせるとし地域住民が描く将来の姿を一緒に考える研修となった。小出町長をはじめ多くの町民の方が熱心に参加されていた。研修の開催支援を行った。



上富田町での研修会の様子

講演する山田塾長

開催名称：②第2回 DMO 白浜設立準備協議会研修会 主催：DMO白浜設立準備協議会

開催日時：平成28年9月23日（金）13時30分～15時00分

開催場所：梅樽温泉 ホテルシーモア

実施目的：観光地域づくりの先進事例の学習を通じて、自分たちの地域における観光地域づくりに向けた課題と方向性の議論を深める。

表題：「白浜がいますべきこと～DMOを活用した地域経営～」

参加者：白浜町議員、協議会顧問、委員、事務局、部会員、観光協会、商工会、旅館組合等の観光振興関係者とDMOに関心のある一般の方 参加数：50名

（連携担当者：DMO白浜設立準備協議会事務局長谷川氏、白浜町観光課高梨氏）



白浜町での研修会の様子

打ち合わせの様子（白浜町）

◆南紀熊野観光塾 第4期 基礎講習コース

日程：平成28年11月10日（木）、11日（金）、11月24日（木）、25日（金）

会場：白浜町「リヴァージュ・スパひきがわ」1階会議室

テーマ：「地域マネジメント」とはどのようなことか？「日本版」DMOを考える！

塾長：山田桂一郎塾長（和歌山大学教育アドバイザー、JTIC SWISS 代表、「観光カリスマ百選」認定、内閣府、国土交通省、農林水産省、総務省地域力創造アドバイザー、内閣府官房「地域活性化伝道師」 講師：和歌山大学観光学部出口竜也教授、竹林浩志准教授、教育学部此松昌彦教授

《基礎講習カリキュラム》「地域マネジメント」とはどのようなことか？「日本版」DMOを考える！

11月10日（木）1日目（基礎講習①）

基調講演「地域経営に観光が果たす役割とは？」（一般聴講OK）

塾長講義「なぜDMOが注目を集めているのか？」

グループ討論「マーケティングとブランディング」翌日グループ討論に向け論点整理

夕食懇親会、夜なべ談義（希望者宿泊）

11月11日（金）2日目（基礎講習②）

塾長講義「エゴと利害関係を越えた連携は可能か？」

グループ討論「DMOで目指す30年後の地域経営の姿」、後に発表、講評

塾長講義「地域経営が目指すべき姿とは？」 纏め

11月24日（木）3日目 ※以降、基礎講習者は任意参加

第四期観光塾塾生講習開塾式・ガイダンス

塾長講義「地域ならではの商品づくりとは？」

塾生による各種活動報告、グループ討議、各種活動報告について意見交換

発表、講師による公表、纏め、夕食交流会、夜なべ談義（希望者宿泊）

11月25日（金）4日目

グループ討議「いい商品とは何か？」「いい商品を作り続けるためには何が必要か？」

発表、講師による講評、まとめ、塾長講義「選ばれ続ける商品づくりとは？」

基礎講習修了式、記念撮影



基礎講習の様子

◆南紀熊野観光塾 第4期 塾生講習コース

日程：平成28年11月24日（木）、25日（金）、平成29年2月13日（月）、14日（火）

会場：白浜町「リヴァージュ・スパひきがわ」、古座川町「南紀月野瀬温泉ぼたん荘」

テーマ：「もっと良くなる！もっと選ばれるためには?!」地域資源を活用した

地域ならではの魅力的な商品づくり

塾長：山田桂一郎塾長（和歌山大学教育アドバイザー、JTIC SWISS 代表、「観光カリスマ百選」認定、内閣府、国土交通省、農林水産省、総務省地域力創造アドバイザー、内閣府官房「地域活性化伝道師」 講師：和歌山大学観光学部出口竜也教授、竹林浩志准教授、教育学部此松昌彦教授

《塾生講習カリキュラム》「もっと良くなる！もっと選ばれるためには？！」地域資源を活用した
地域ならではの魅力的な商品づくり

11月24日（木）1日目（塾生講習①）

第四期観光塾開塾式・ガイダンス

塾長講義「地域経営を支える商品づくりとは？」

塾生による各種活動報告、グループ討議、各種活動報告について意見交換

発表、講師による講評、纏め、夕食交流会、夜なべ談義（希望者宿泊）

11月25日（金）2日目（塾生講習②）

グループ討議①「いい商品とは何か？」討論②「いい商品を作り続けるためには何が必要か？」

発表、講師による講評、纏め、塾長講義「選ばれ続ける商品づくりとは？」

2月13日（月）3日目（塾生講習③）

塾長講義「地域ならではの素材のを見つけ方、みがき方」

塾生活動報告と講評

塾長講義「地域経営における戦略と戦術とは」、「地域マーケティングとは」

夕食交流会、体験、夜なべ談義（希望者宿泊）

2月14日（火）4日目（塾生講習④）

グループ討議「地域経営において何を目的とし、何を手段とすべきか？」

グループ討論「なぜ、地域経営にマーケティングが重要なのか？」

塾長講義、議論の発表、講評、纏め、塾長講義「持続可能な地域経営とは？」

塾生講習修了式、記念撮影



開塾挨拶をする出口教授



活動報告をする塾生（古座川町）

◆塾生講習のゲスト講師：3名

講師1：北海道から松前町矢野旅館若女将杉山夏子氏が広域連携の事例として津軽海峡マグロ女子会（北海道、青森間）取り組みや地域素材を活かした商品開発について講義の後、質疑を実施。

講師2：山田和昭（若桜鉄道株式会社 代表取締役社長）

「こんな田舎に誰も来ない」「撮り鉄は金を落とさない」と言われながら13,468人、経済波及効果1805万円、広告換算効果4745万円を叩き出した。地域が稼げる観光ビジネスを創出するための社会実験を成功させた。経営理念「地域の役に立つ鉄道」-地域を元気にしたいという想いを鉄道に託し地域に支えられる鉄道である以上、地域の役に立つ事を第一義として取り組みを行っている。ネット回線にて双方向のライブ講義を行った。

講師3：森成人（株式会社リクルートライフスタイル事業統括、経済同友会出向→気仙沼市応援職員）

99年リクルート学び事業部に配属後、02年にホットペッパー大阪版の立ち上げ時に営業部リーダーを経験し、07年に新規事業開発を行いにて会社初のCtoCサイト「おしえるまなべる」を開発。その後、リクルート分社後にリクルートライフスタイルでボンパレ、じゃらんパックなどの新規事業立ち上げ経験を経て13年より経済同友会に出向して被災地気仙沼の復興計画具現化の業務をスタート。現在は主に気仙沼の人材育成や、観光着地型商品開発支援や市民観光意識醸成事業などの支援をしながらDMO構築の具現化の検討を行っている。気仙沼におけるDMO組織の紹介から今後の可能性について講義を行った。

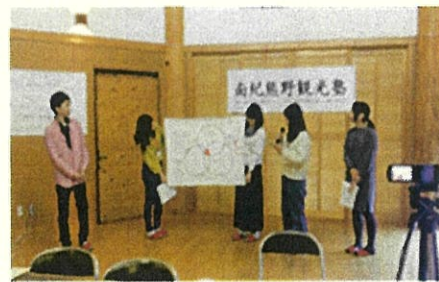


古座川町の休耕田の野花で編み込む「花編み体験」に参加する様子



出来上がった花編み

花編み乙女から教えてもらう和歌山大学生



南紀熊野観光塾生の前で発表する和歌山大学生（観光学部生）の様子



企画を練って発表しながら論点を整理する塾生の様子



塾長からのアドバイスと講師による講評の様子



杉本講師と塾長のセッション

マグロの尾羽を真似たポーズで記念撮影



塾生講習修了者に終了証の授与している様子

◆南紀熊野観光塾 基調講演

講演名：「地域経営に観光が果たす役割とは？」 講師：山田桂一郎氏

日時：11月10日（木）13時10分～14時40分

場所：リヴァージュ・スパひきがわ



基調講演の様子（白浜町）

【2】生涯学習部門／高大連携部門

2-1 生涯学習関係／講座・セミナー

《県教育委員会や地域連携・生涯学習センターと連携、地域課題に寄り添う取り組みに参画》
子育て支援研修の紀南地域での広報支援などを行った。

【3】地域研究／本学授業講義支援／学生、同窓会活動支援

3-1 地域研究関係

《学内の研究プロジェクトや教職員の地域活動の支援、学生の現地活動の支援を実施》

昨年度に和歌山大学教育改革推進事業 OSM と LocalWiki を活用した地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業での現地活動の支援を実施した。その後研究成果を基に代表教員等と企画して南紀熊野サテライト科目「紀州郷土学2C」「紀州郷土学2D」として開講して社会人を対象として授業を実施した。授業には、教育プロジェクトで学習した学生もサポートとして参加して学びを深めた。その他、地域ニーズや学内教員と連携する各種のコーディネートを実施した。

《和歌山大学教育改革推進事業の実施支援》

オープンソースの地図である OSM (open street map) と地域情報をウィキペディア形式で記事化できる LocalWiki を複合的に活用した地域資源の発掘と情報発信を行う作業を通じて、持続可能な社会を担う人材育成を目的とした授業で、昨年度は、田辺市の中心市街地をフィールドにマッピングパーティと呼ばれるフィールドワークの手法を活用した。本年度では、対象地域に詳しい地域住民の参加を募り、本学学生との協働で学生では得られない地域資源の情報の獲得をはかるとともに外部者の視点を持つ本学学生による地域資源の評価を地域住民に提供することで地域資源の価値のとらえ直しを行う機会となった。同地域で過去に作成していた紙媒体の観光地図のデータ入力によるデジタル化が実現している。

こうした事業実施を通じて田辺市内の各種団体（田辺市役所、田辺商工会議所、株式会社南紀みらい、田辺市観光協会、田辺市熊野ツーリズムビューロー、南方熊楠顕彰館、紀伊民報、FM TANABE、つれもてネットワーク、県立田辺高等学校、和歌山県情報政策課とのネットワークが構築された。この成果をもとに平成28年度サテライトで開講の紀州郷土学2D フィールドワークに位置付けて社会を担うリーダー育成の教育プログラムとしての開発を協働で推進した。県立田辺高等学校の高校の地域教育科目のプログラムの一部でも、LocalWiki を使った記述と発信を行った。紀州郷土学2D の授業に田辺高校の現任教諭、和歌山大学進学希望の高校生も参加。授業の最後には支援にきた和歌山大学観光学部生と高校生が交流した。地域の記事を世界に発信することで地域愛を高め活用する手法を実践的に活かした。

またこの作成したサイトを知ってもらうために田辺市街地の観光マップに田辺祭に参加した学生の記事へ誘導する QR コードを試験的に付けるなど、情報発信の取り組みを進めた。このマップは経済学部の新入生研修で田辺市街地を散策する学生にも配布。地域への関心を高める機会となった。

「紀州郷土学2D」最終授業では田辺祭の参加レポートを作成して、現地の方を招いて成果報告会を実施した。人口減少による担い手が課題となっている市街地の祭りであるが世界遺産の追加登録となり関心も高まっている。インターネットのサイトを活用して世界に発信する貴重な機会をいただいた。

日 時：平成28年12月17日（土）13時30分～14時00分（予定）

場 所：和歌山県立情報交流センターBig.U内 ネットワーク実習室（会場図は別添）

報告者：和歌山大学観光学部 学生3名（倉田、杉本、高）



社会人学生の前で田辺祭の記事サイトを発表する学生 お世話になった南新町の皆様



学生の発表に講評頂く南新町町内会長様 田辺祭の学生レポートサイト誘導するQRコードをマップに記載

3-2 本学授業、学生との連携・支援

《学生の調査や研修時に、地域情報を紹介するなどの活動支援を実施》

南紀熊野地域でのフィールドワークや、各種企画の相談や現地調整等、教員や学生の地域での教育研究の現地支援を実施した。

学内クリエ、ソーラー4輪自転車プロジェクトの田辺市本宮町での下見調査を現地支援

開催日：平成28年12月18日（日）

参加者：自主演習クリエの学生3名、観光学部中串先生引率

内容：熊野本宮大社においてソーラー4輪自転車を活用する手段を模索、検証することを目的に下見と聞き取り調査を行った。下見では現地の方の協力を得ながら地形を把握するため熊野本宮付近の道をレンタサイクルで走行しモデルコースの作成検証を行った。モデルを参考に次回4輪自転車で走行してコース検討を行う予定。



本宮世界遺産館で聞き取りをする学生グループ 参考) 10周年事業で紹介したソーラー自転車

学生支援 2016 年度卒業論文『複合文化施設における居心地と行動に関する研究』

開催日：平成28年10月22日

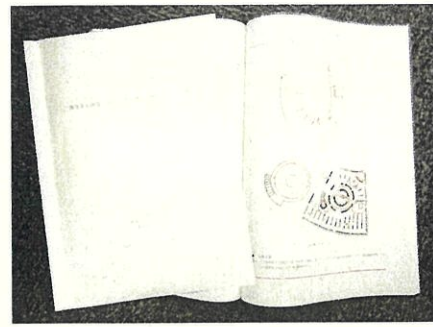
調 査：和歌山大学システム工学部デザイン情報学科空間デザイン研究室 川角先生のゼミ生 3 名

調査地：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユー、図書館等

内 容：休憩スペース、自習スペース、図書館など来訪者がどのように利用しているのかをアンケートでの聞き取り、利用実態、管理者からの聞き取りなどを目視で確認をしながら分析。結果を卒業論文として纏めて学会にも報告。



館内入口付近でアンケートを配布するシステム工学部生



発表された論文

田辺市大学連携地域づくり事業（採択2件の申請と現地支援を行った）

概 要：大学等との連携によって学生を本市各地域に呼び込むとともに、地域が抱える人口減少や過疎化に伴う様々な課題に対する解決策を地域住民らとともに考え、地域の持続と振興に資することを目的に実施するものであり、大学等が実施する地域や本市行政組織と連携した実践的な活動等に対し支援を行う。

事業名：「田辺祭を世界に発信！」OSM と LocalWiki を活用した地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業

実施日：平成28年7月23日～26日 場所：田辺市街地（南新町）

参 加：14名（教職員3名、学生11名）引率代表：観光学部出口竜也教授

内 容：7月24日～25日に田辺市の中心市街地で開催される「田辺祭」を訪れ祭りに参加することで地域住民らと交流する。その聞き取り調査の成果を OSM と LocalWiki を活用することで発信しその結果を地域に還元する。地域の現状を理解し新しい学習手法としての成果発信は地域情報の「見える化」の実現となり田辺市街地のみならず応用可能なモデルになる。その手法を伝統行事に使用する取り組みは地域住民の地元愛やほこりの熟成に寄与することも期待。後に市街地マップにサイトへ誘導する QR コードを付けて配布。成果報告会を地域で行った。



田辺祭について、インターネットで配信する記事を聞き取り



祭りに参加している様子（南新町）



地元とは違う祭りを楽しむ学生達（観光学部生）田辺祭にて

事業名：「地域から学ぶサスティナビリティ～観光の視点を活かした持続可能な地域発展にむけて」（和歌山大学観光学部「環境と観光」に関する集中講座、およびフィールドワーク）

実施日：平成28年9月18日～19日、平成28年11月2日～3日

場 所：田辺市 温川、近露

参 加：延べ20名（教職員5名、学生15名）引率代表：観光学部加藤久美教授

内 容：和歌山大学観光学部における地域の持続性をテーマとした集中講座「サスティナブルツーリズム」（担当：イギリスサリー大学、和歌山大学特別主幹教授グラハムミラー、観光学部加藤久美）及び、「環境と文化」のフィールドワークの現場として地域の自然、文化、知恵を活かした先進的試みを行っているコミュニティを訪れ、交流し地域課題について地域の代表者から講義を受ける。学生はそれを基にディスカッション、リサーチを行い、ケーススタディとして纏める。結果は地域に還元し今後の活動に活かしてもらう。毎年本企画を地域と継続的に築くことにより観光教育を通じた地域発展を支援することをめざして実施。



ディスカッションを行う様子（田辺市中辺路町近露にて）

3-3 大学同窓会組織との連携

《アンケート調査を実施。紀州地域学共同研究公開シンポジウムを地域で開催誘致の支援を実施》

地域の同窓生の多様な業種世代の交流と連携を深めるための、企画講座や提案事業等の活動を支援。

その他、情報収集として「交流シート」を配布するなど。同窓会生の自主的な運営を支援した。

また、和歌山大学紀州経済史文化史研究所、教育学部大橋教授と連携して紀州地域学共同研究会公開シンポジウムを地域で開催。運営支援を行った。

◆紀州地域学共同研究会公開シンポジウム（3月17日～19日）

シンポジウム：「紀州地域の〈うた〉と聖地」

開催日：平成28年3月17日（金）13時30分～17時30分

巡検：「田辺・熊野中辺路の宗教文化」

開催日：3月18日（土）8時00分～18時00分

シンポジウム：「紀行映画「熊野路」と南方熊楠—新発見の南方熊楠映像資料をめぐる—」

開催日：3月19日（日）9時30分～12時00分 13:00～14:30

公開講演会「熊野懐紙の世界—後鳥羽院が和歌に託した祈り—」

講師：佐々木孝浩氏 場所：和歌山県立情報交流センター Big・U

主催：紀州地域学共同研究会（代表：大橋直義 和歌山大学 教育学部／和歌山大学紀州経済史文化史研究所）共催：国文学研究資料館（歴史的典籍 NW 事業）、和歌山大学紀州経済史文化史研究所 南方熊楠顕彰会（田辺市）、和歌山大学南紀熊野サテライト、後援：和歌山大学南紀熊野サテライト同窓会



公開シンポジウムの様子（田辺市）



研究者と地元ガイド参加（和歌山大学生3名参加） 事前打ち合わせの様子

【4】地域連携・産官学連携部門／地域からの相談／広報活動

4-1 大学との地域の連携・協働推進

《企業や自治体、教育関係からの相談対応や事業協力、活動支援を実施》

地域課題解決に向けて学内外の連携、協働を推進。学内の教育支援フォーラムの配信講義への協力、南紀熊野ジオパーク推進協議会への活動支援を実施した。

- ①地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力。
- ②特別支援教育コーディネーターフォーラム遠隔開催サポート（和大本学→Big.u 通信）今年度4回実施。
- ③高等教育機関コンソーシアム和歌山等の企画提案事業の南紀熊野地域説明会支援。
- ④「南紀熊野ジオパーク構想」推進協議会関連への活動協力を継続実施。西エリアチームの例会に出席するなど継続して推進協議会の企画活動や広報支援を実施した。

南紀熊野ジオパークジオ興しチーム（西エリア）にてネットでの情報発信の研修に協力

主 催：和歌山県自然環境室、西牟婁振興局地域振興部企画産業課 調査地：上富田町

内 容：過去に上富田町にてジオパーク関連のあるもの探しを数回行ってきた。結果を反映して観光客や地域住民にも知ってもらえるようインターネット上で情報を整理して発信する手法を学んだ。

参加者：ジオパークガイド、地域住民、自治体職員（上富田町、白浜町、すさみ町他）



ローカルウィキを活用するための研修の様子（上富田町、田辺市）

すさみ町観光動向調査に協力

開 講 日：平成 28 年 9 月 24 日、12 月の 2 回

実施機関：株式会社日本出版調査地点

調査地点：道の駅すさみ、ホテルヴェルベデーレ

内 容：平成 28 年度すさみ町観光動向調査に係る観光地点調査業務の調査員に南紀熊野観光塾修了生を派遣した。すさみ町では道の駅すさみにおける「観光客数」と「観光費用」等を把握するため、観光地に訪れる観光客の皆さんを対象にアンケート調査を実施。アンケートでは、旅行目的、滞在地・日数、観光費用等をお伺いして何人ぐらいの人がどこでどのくらいの予算で観光しているかを調査。この結果を統計的に処理して道の駅すさみの観光データを整備することが目的。

4-2 きのくに活性化センターとの連携

《きのくに活性化センターの会議や研究調査活動に参画》

きのくに活性化センターと連携して、地域課題や地域資源について研究調査活動を実施している。きのくに活性化センターの事業概要は、田辺、新宮両広域圏市町村組合（紀南地方全自治体）や田辺、新宮商工会議所、JA 紀南、和歌山県、和歌山大学（南紀熊野サテライト）の参画による調査研究機関として紀南地方の諸課題に関するリサーチや相談窓口の役割を担い、地域の価値をブラッシュアップする事業を提案・協同で実践、地域と地域、地域と人を繋ぐ「場」の創出を行っている。

- ①きのくに活性化センター企画運営委員会など会議へ参画。
- ②きのくに活性化センター事業へ参画。



きのくに活性化センター総会



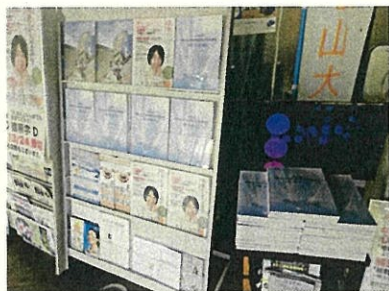
ニュースきのくに

4-3 大学広報・情報提供関係

《入試広報物の配架や、学内広報室と連携した情報発信、わかりやすい広報媒体を作成した》

大学の入試情報や学生募集要項の他に、大学の雰囲気や学生生活が伝わる学生広報グループ情報誌やオープンキャンパス、主催講座チラシ等の配架や、学内広報室と連携して大学内のサークル紹介や活動の動画を配信できる「デジタルサイネージ」の設置を継続的に行った。南紀熊野サテライトホームページでは活動紹介を

頻回に行った。年間 66 回情報更新、南紀熊野サテライトと大学の紀南地域の取り組みを分かりやすく紹介したパンフレットを配布。募集チラシにエントリーしやすい QR コードを付すなど学内外への情報発信強化を実施した。※QR コードを利用した受講申込は 21 件



教員免許状更新講習募集要領冊子の配布



本学広報室のデジタルサイネージ



申込メール QR コードを付けたチラシ

開催日：平成 28 年 4 月 16 日（土）、17 日（日）

場所：白浜町阪田会館（和歌山県西牟婁郡白浜町 1）

内容：白浜商工会青年部のご依頼を受けて白浜商工祭にて、和歌山大学生協と連携して小学生が販売を行う「こども商店」に協力。地元の子供達が店員となって、和歌山大学グッズ（ぬいぐるみ、携帯ストラップ）他、ご当地キャラクターグッズを販売。店舗周辺で大学のキャラクターわだにゃんが 7 月 17 日（日）開催の和歌山大学オープンキャンパスのチラシを配布した。



白浜商工祭「こども商店」で子供達が和歌山大学グッズ販売の様子

【5】本学防災対策本部分室の活動

5-1 台風 12 号対策（本学対策本部分室の活動）

《防災シオツアー等開催の広報協力を実施》

平成 23 年東日本大震災・紀伊半島豪雨災害支援対策本部の分室として、南紀熊野サテライトが位置付けられ、その後学内研究調査のプロジェクトの現地支援や共同研究、研究報告会の現地支援、広報活動等を実施している。地域での防災シオツアーやシンポジウムの広報支援や開催支援を行った。

学内防災シンポジウム等の開催支援、広報支援を行った

講演名：「災害時における情報流通～被災地の情報を如何に入手するか、如何に伝えるか～」

開催日：平成 28 年 12 月 11 日（日）13 時 00 分～17 時 00 分

場 所：和歌山県立情報交流センター Big・U 多目的ホール

主 催：国立大学法人和歌山大学、共催：一般社団法人国立大学協会、和歌山県情報化推進協議会（WIDA）

後 援：総務省近畿総合通信局、和歌山県、和歌山県教育委員会、田辺市、田辺市教育委員会、白浜町、白浜町教育委員会、和歌山県市長会、和歌山県町村会、NHK 和歌山放送局、株式会社和歌山放送、一般社団法人 日本コミュニティ放送協会（JCBA）

内 容：平成 28 年 4 月には熊本地震、10 月には鳥取地震が発生し度重なる台風の来襲によって地域が甚大な被害を受け、日本のどこでも災害が起こりうることを再認識した 1 年となった。和歌山では、平成 23 年台風 12 号で多くの人命・財産が奪われ、将来南海トラフに関わる巨大地震の発生も予想されており、如何にして災害に対処するかが全ての自治体、住民にとって喫緊の課題となっている。災害が発生時の被害を少なく、或いは復旧復興を早めることに必要なのは情報の共有。発災後の自助、共助のための連絡調整をすることなど、減災・縮災のために必要な情報収集・整理・伝達するための基盤整備を考えるためシンポジウムを開催。

4 月熊本地震で発災直後に臨災局に転換した熊本シティエフエム村上隆二氏を迎え発災時に臨時災害放送局の果たした役割について講演いただいた。また地域の危険を予知するため、危険情報マップの作成に関わる方を迎えて講演とパネルディスカッションを実施した。



那智勝浦町や田辺市などで実施された「防災ジオツアー」告知チラシ

【6】運営基盤の強化／視察受入等

6-1 大学間連携

《県内コンソーシアム事業への参画や、全国の大学教職員、コーディネーターを対象として、地域連携コーディネーターフォーラムを開催》

県内コンソーシアムでの研究推進や、支援を実施。また和歌山大学では地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材育成、大学と地域の発展に向けた輿論づくり、地域型サテライトへの着目の 3 点を目的に地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー（合宿型研修）を毎年実施。昨年度に続き全国の国立大学、公立、私大など関係者が参加。大学と地域の連携の情報交流する場として実施している。

開催名：「第 5 回地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」

開催日：平成 28 年 9 月 8 日（木）～9 日（金）1 泊 2 日

主催：和歌山大学、共催：尚絅学院大学

対象：国公立大学における地域連携担当コーディネーター及び担当教職員

会場：尚絅学院大学（宮城県名取市ゆりが丘）

内 容：今回の開催では、東北大災害時に大学はどのように地域に向き合ったのか「地域に存立する大学の実践—震災と向き合っ—」と題して事例報告、その後、地域の危機に何ができるのかと題して、尚絅学院大学学長合田隆史氏と国立大学協会専務理事山本健慈氏による鼎談。グループワークを実施した。同じ課題を持つ教職員が交流、議論の中で、他大学の方法論の共有などを通じて、セミナー後の繋がりを持つために SNS を活用したグループを作成するなど全国の大学機関との発展的な関係構築を目指して取り組んでいる。今年度は五回目、昨年度より参加大学から持ち回

りで会場を設定。地域連携担当部局や教職員を持つ機関や大学に呼びかけ和歌山大学がホスト校として実施している。

6-2 南紀熊野サテライト運営基盤の強化に向けて

《南紀熊野サテライト連携協議会企画運営委員等と「みらい戦略第三期計画」骨子案を策定》

「地域の知の拠点」として授業開催の機会提供だけではなく、紀南地域をフィールドとした「課題解決・地域価値創造」に資する教育・研究・実践の発展を目的としたみらい戦略第三期アクションプラン策定のために具体的な案を企画委員等と意見交換を行い、骨子案を策定した。周年を機に地域住民、自治体職員、大学教員、同窓会、他大学に向けてアンケート調査から現状と課題を確認したうえ二期計画で、達成した項目と未達成項目などの策定プランの分析を行い重点的な項目を策定した。地域での更なる基盤強化、情報連携を進めて活動を推進するために企画運営委員や南紀熊野観光塾生、受講生、地域住民と日常的に意見交換の機会を増やして取り組みに活かした。

開催日：平成 28 年 6 月 1 日（水）

場 所：田辺市役所 市長室

内 容：田辺市と国立大学法人和歌山大学との連携協力に関する包括協定書締結式

田辺市役所にて真砂市長、瀧学長が出席して田辺市と国立大学法人和歌山大学との連携協力に関する包括協定書締結式を取り交わしました。既存の取り組みに加えて更なる連携を目指します。



田辺市と国立大学法人和歌山大学との連携協力に関する包括協定書締結式の様子（田辺市役所）

開催日：平成 29 年 2 月 27 日（月）14時30分～15時10分

場 所：新宮市役所仮庁舎地下会議室（〒647-8555 和歌山県新宮市春日1番1号）

内 容：東牟婁地域での授業開講を望む連携市町村や地域住民の声や大学方針を受け、南紀熊野サテライトで開講している学部開放授業の一部を、平成29年度前期より東牟婁地域で開設することとなり開設準備を進めた。東牟婁地域での授業開設に先立ち、本学の地域での活動へのご理解を深めて頂くため、広く県民の皆様に周知広報したく記者会見を執り行った。

対 象：新宮中央記者会（4大紙、TV）、新宮記者クラブ（地方紙）、熊野市記者クラブ

趣 旨：①新宮市にて和歌山大学の授業を新規開講するにあたり、周辺住民の皆様に広く周知広報し受講生として応募していただきたい。②和歌山大学の東牟婁地域（新宮市）での新しい取組を広く周知広報して、周辺住民の皆様に今後の活動に対してご理解とご協力をいただきたい。

過去10年間の田辺市での学部開放授業の設置科目は、44科目、延600名が受講。地域の県市町村の公務員の方や現役教員、地域活動家が受講され職務に活かし地域で活躍している。

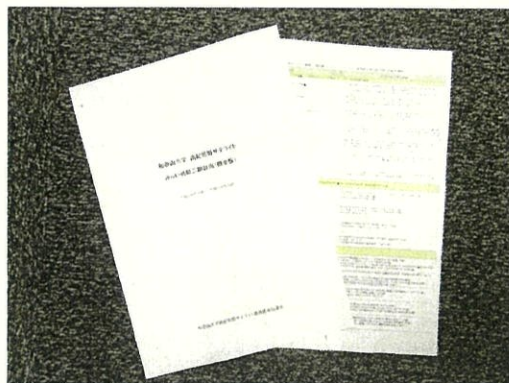
今回の設置に至っては、東牟婁振興局や新宮市周辺の自治体、地域団体の協力を得ながら、新宮信用金庫様に社会貢献の一環で会場を無償提供いただくことで実現した。



和歌山大学南紀熊野サテライト学部開放科目設置の記者会見の様子（新宮市役所仮庁舎）

開催日：平成 28 年5月19日～平成29年2月28日

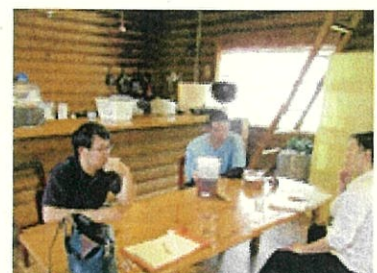
内容：和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会企画運営委員会にて7回の会議を執り行い、委員と共に「みらい戦略第三期アクションプラン」を策定した。「地域の知の拠点」としてのサテライトを確立するための計画とし、大学の学部、大学院教育の機会提供だけでなく、紀南地域をフィールドとした「課題解決・地域価値創造」に資する教育（人材育成）・研究（理論と実践）・実践（政策・地域づくり）の発展のために本計画を策定した。実施期間は、平成28年4月からとして平成34年3月末までの6年間とする。既存の第二期計画を見直し、各事業の重点項目、具体的取り組み例、成果指標例を設けて引き続き企画運営委員会にて年度の進捗管理を行うこととした。



策定された「みらい戦略第三期計画」



みらい戦略第三期アクションプランの概要



連携協議会企画委員や南紀熊野観光塾生との意見交換の様子（上富田町、古座川町、串本町）

6-3 南紀熊野サテライト視察の受け入れ、研修参加

《他大学の視察の受入や学内教職員の視察受入を実施》

他大学からの視察受け入れや研修会、シンポジウムの参加、意見交換会への参加を行い学外の実践者との意見交換を行った。他大学からの視察の受け入れは2件（山梨学院大学、岩手県立大学）その他、和歌山県庁商工観光労働総務課主催の官民連携手法の活用事例等のセミナーに参加した。

シンポジウムに参加

日時：平成28年7月8日 場所：ダイワロイネットホテル和歌山4階

内容：初任者研修公開授業の記念講演シンポジウムに参加。教職大学の取り組みについて知見を深めた。

観光DMOに関する北海道からの視察対応に参加

日時：平成28年7月12日 会場：田辺市熊野ツーリズムビューロー

内容：北海道日高地域（広尾町、えりも町、様似町、浦河町）の四町広域宣伝協議会に対する講演（世界に開かれた持続可能な観光地を目指して）、日本型DMOのあり方に関する意見交換の会議に参加。先進的な取り組みを行っている一般社団法人田辺熊野ツーリズムビューローを訪れ、多田稔子会長村本雅人事務局長から聞き取り。観光学部出口先生が加藤肇子（まちづくり観光デザインセンター代表）から依頼を受けて両者を繋ぎ、意見交換の進行を行った。

山梨学院大学の視察対応

日時：平成28年9月7日（水）午後13時 場所：和歌山大学南紀熊野サテライト

来訪：山梨学院大学 数住伸一他2名（計3名）

内容：南紀熊野サテライト開設の経緯や主な受講者属性、実施する事業計画をどのように作成しているか、観光実践教育サポートオフィスとの連携や、地域にサテライトが存在することによる効果について聞き取り調査に来訪。過去の資料、実施事業の報告書から近年の傾向を意見交換。連携協議会を通じた県や市町村との関係について説明。

岩手県立大学の視察対応

日時：平成29年2月24日（金）午後13時 場所：和歌山大学南紀熊野サテライト

来訪：岩手県立大学 阿部 昭博 教授1名

内容：ソフトウェア情報学部での取り組みに地域観光を活かすことを検討している。サテライトでの観光に関する取り組みや社会人受講者の確保についてどのようなノウハウで運営されているかの聞き取りがあり、その後に意見交換を行った。



北海道日高地域の日本型DMO視察の様子（田辺観光センター2階会議室、白浜町他）

6-4 会議運営・他サテライトとの交流会、和歌山大学の最前線拠点として

《各種の会議運営や、和歌山大学・南紀熊野サテライトの情報発信を実施》

- ①オフィス会議、南紀熊野サテライト連携協議会総会、幹事会、企画運営会議の会議運営を担当。
- ②和歌山大学の全学の最前線拠点、情報拠点として大学案内・入試案内・各種大学事業、地域情報提供を行うと共に南紀熊野地域の知の拠点として、教育研究事業への参画・連携、情報発信等の諸活動を実施。
- ③教育研究事業の地域での成果報告や活動成果の情報発信を実施。
- ④和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会みらい戦略第三期計画アクションプラン策定。

以上

あしがき

本年度もサテライト事業の展開・企画遂行、地域連携事業が多岐にわたり、さまざまな成果となりました。これらは、サテライトだけでは達成されるものではなく、受講生の皆様、地域の皆様、学内の皆様、関係者の皆様の支えがあって実施されたものです。皆様に厚く御礼を申し上げます。今後も「地域と融合する大学」の実践に向けて様々な取り組みを実施します。

和歌山大学南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2016年度
2017年（平成29年）3月発行

国立大学法人 和歌山大学 南紀熊野サテライト
〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町3353-9-102
和歌山県立情報交流センターBig.u内
TEL：0739-23-3977 FAX：3978
E-mail：nankuma@center.wakayama-u.ac.jp
HP：<http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/>

和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

Open Seminar オープンセミナー開催

8月28日(日) 13:30~16:00

県立情報交流センター Big・U 研修室4

和歌山県田辺市新井町 333-3-9

記念講演
講演1 大学教員「現代中国経済発展」の授業より
「購買」現象から中国をとらえてみる」
講師 金澤 幸典 (カナザワ アキ) 和歌山大学 経済学部 教授

講演2 学部開放授業「ローカルウィキ」の授業より
「Local wiki (ローカルウィキ) でまちを盛り上げよう」
講師 中島 俊介 (ナカシマ シュンスケ) 九州国立大学 名誉教授 博士(学術)

受講生募集説明会もあります
田辺市と新宮市で大学の授業を受講できます！
いくつになっても、働きながらも大学生に
18歳以上ならどなたでもOK!
15歳以上ならどなたでもOK!
12歳以上ならどなたでもOK!
10歳以上ならどなたでもOK!

申込方法・問い合わせ先
申込方法: 氏名、連絡先等の必要事項を下記の申込先へメールまたはFAXにてお申込ください。
申込期間: 平成28年8月27日(土) 申込締切: 申し込みがある場合は8月28日(日)17:00まで(当日受付は対応できません。場合があります。)
申込先: 和歌山大学南紀熊野サテライト 〒646-0011 和歌山県田辺市新井町 333-3-9 県立情報交流センター Big・U 内 102号 TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978 受付メール: nankumallcenter@wakayama-u.ac.jp

お申し込み書 FAX: 0739-23-3978 締切: 8月27日(土)17:00

お名前:	性別:	性別: 男 / 女	電話番号:
ご住所:	FAX 番号:		
ご所属:	Eメール:		

和歌山大学 南紀熊野サテライト 連携協議会



平成28年前期 受講者募集説明会&オープンキャンパスセミナー、学生募集チラシと募集要項

和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

Open Seminar オープンセミナー開催

3月5日(日) 14:30~16:00

開場(受付開始)14:15

県立情報交流センター Big・U 研修室4

和歌山県田辺市新井町 333-3-9

記念講演
学部開放授業「地域暮らしの健康学D ~よく生きるための「心のあり方」~」の授業より
アドラーと森田の心理学
生きる力を強めるアドラーと森田の心理学
講師: 中島 俊介 氏 九州国立大学 名誉教授 博士(学術)

受講生募集説明会もあります
田辺市と新宮市で大学の授業を受講できます！
いくつになっても、働きながらも大学生に
18歳以上ならどなたでもOK!
15歳以上ならどなたでもOK!
12歳以上ならどなたでもOK!
10歳以上ならどなたでもOK!

申込方法・問い合わせ先
申込方法: 氏名、連絡先等の必要事項を下記の申込先へメールまたはFAXにてお申込ください。
申込期間: 平成28年3月4日(土)17:00
申込先: 和歌山大学南紀熊野サテライト 〒646-0011 和歌山県田辺市新井町 333-3-9 県立情報交流センター Big・U 内 102号 TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978 受付メール: nankumallcenter@wakayama-u.ac.jp

和歌山大学 南紀熊野サテライト キャンパス

Open Seminar オープンセミナー開催

3月11日(土) 14:00~16:00

開場(受付開始)13:30~

会場 新宮信用金庫 5階会議室

和歌山県新宮市大宮町 1-1-1

受講生募集説明会
記念講演
「熊野郷土学A ~郷土学からの地域編〜」の授業より
熊野を中心に紀伊半島を考えてみよう! Edit your city!
講師 和歌山大学教育研究アドバイザー 杉山 幹夫 氏

受講生募集説明会
田辺市と新宮市で大学の授業を受講できます！
いくつになっても、働きながらも大学生に
18歳以上ならどなたでもOK!
15歳以上ならどなたでもOK!
12歳以上ならどなたでもOK!
10歳以上ならどなたでもOK!

申込方法・問い合わせ先
申込方法: 氏名、連絡先等の必要事項を下記の申込先へメールまたはFAXにてお申込ください。
申込期間: 平成28年3月10日(金)17:00
申込先: 和歌山大学南紀熊野サテライト 〒646-0011 和歌山県田辺市新井町 333-3-9 県立情報交流センター Big・U 内 102号 TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978 受付メール: nankumallcenter@wakayama-u.ac.jp

平成28年後期 受講者募集説明会&オープンキャンパスセミナー

配布場所: ビッグユー、市役所町役場(田辺市、新宮市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町)、図書館、公民館、田辺商工会議所、和歌山大学、和歌山県、紀陽銀行、地域拠点他

和歌山大学 南紀熊野サテライト
Cycling Cafe 開催!

サイクリングライフナビゲーターの
絹代さんと語ろう!

自転車を生活の軸にして、食べる、カラダを動かす
ことを通じて、カラダもココロも、より健康に、美しく!

生活をより楽しく、豊かなものにする自転車の活用方法を紹介します。

自転車イベントの中心として、イベントの企画や運営、広報、接客、イベントの進行、受付、案内、清掃、ゴミの回収、など、幅広い分野で活躍されています。また、イベントの企画や運営、接客、イベントの進行、受付、案内、清掃、ゴミの回収、など、幅広い分野で活躍されています。

参加費無料 先着20名

平成28年 7月16日(土)
11:00~12:30(予定)
※10:45までに受付をお済ませください!

受付・集合場所: ビッグユアーズ修善寺2
和歌山県田辺市修善寺 3353-9
※ランチ・カフェができる場所で開催します。
※自由に飲みかけます。(持込み可)

申込方法・問い合わせ先

申込方法: 氏名、連絡先等の必要事項を下記の申込先へメールまたはFAXにてお申込ください。
申込期限: 平成28年7月15日(金) ※郵送の場合は届いた日をもって受付とさせていただきます。当日お申し込みはできません。
申込先: 和歌山大学南紀熊野サテライト 〒646-0011 和歌山県田辺市新庄1-3353-9 和歌山県立情報交流センター big U 102号
TEL: 0739-23-3977 FAX: 0739-23-3978 受付メール: rankuma@center.wakayama-u.ac.jp

サイクリングカフェ 7月16日 参加申し込み書

お名前: 年齢: 性別: 男・女 電話番号:
お名前: FAX番号:
所属: 電子メール:
当日来ていただくこと:
主催: 和歌山大学南紀熊野サテライト 共催: 和歌山大学経済学部

SHISHIMAI cafe vol.2

古座流獅子舞の演目とその特徴

岡の獅子舞をとおして

今回のカフェは、祭り本番!

平成28年 11月23日(祝)
10:00~15:00(予定) 先着15名

集合・解散: 岡小学校横庭駐車場
参加費: 4,000円(軽食、保険代、ガイド料、ひょうたん給付け、和紙貼り体験料)
オプション: ひょうたん絵馬(祈願・奉納)500円

10 00 集合 岡小学校横庭駐車場 ※朝日ガイドがお待ちしております。
12 00 獅子舞カフェ〜和歌山大学 紀伊経済文化史研究所 特任准教授 吉村先生、役員ガイドの解説
※各自飲食くまのめちお飲物あり 昼食会場: 八上神社前、八上公園 ※持参はツアープランに含まれています。
13 20 獅子舞カフェ〜獅子舞見どころ 花一夜の舞見守り
13 30 獅子舞(八上神社前(高座下)会場) 白旗あゆみとんたのガイドの会
13 45 ひょうたん給付け体験(岡内) ※体験時間60分
15 00 終了 駐車場まで移動後に解散

申込・問い合わせ
TEL: 090-3443-0460 石丸まで(上富田観光コンシェルジュ) メール: kumanokurun@gmail.com
申込期限: 平成28年11月19日(土) 17:00締切
主催: 黒野くるとり 共催: 和歌山大学南紀熊野サテライト、口黒野かみとんたのガイドの会

サイクリングカフェ

南紀熊野観光塾 第4期
11月10日(木)
13:10~14:40 (12:45開場)

会場: リバージュスパひびきがわ
1階会議室

「地域マネジメント」とはどういうことか?
~「日本版」DMOを考える!~

入場無料 先着40名

基調講演
地域経営に観光が果たす役割とは?

内閣府、国土交通省、農林水産省認定
観光カリスマ・南紀熊野観光塾長 山田桂一郎氏

申込方法・問い合わせ先

申込方法: 氏名、連絡先等の必要事項を下記の申込先へメールまたはFAXにてお申込ください。
申込期限: 平成28年11月9日(水) ※郵送の場合は届いた日をもって受付とさせていただきます。当日お申し込みはできません。
申込先: 和歌山大学南紀熊野サテライト 〒646-0011 和歌山県田辺市新庄1-3353-9 和歌山県立情報交流センター big U 102号
TEL: 0739-23-3977 FAX: 0739-23-3978 受付メール: rankuma@center.wakayama-u.ac.jp

お申し込み書 FAX: 0739-23-3978 締切: 11月9日(水)17:00

お名前: 年齢: 性別: 男・女 電話番号:
お名前: FAX番号:
所属: 電子メール:
当日来ていただくこと:
主催: 和歌山大学南紀熊野サテライト 共催: 和歌山大学経済学部

歴史カフェ (獅子舞カフェII)

Andler Cafe

今話題のアドラー心理学をヒントに先生と語りませんか?

嫌われる勇氣とはあるがままの心とは目的の雑草とは

北九州市立大学 名誉教授 博士(学術) 臨床心理士 エッセイスト
中島俊介先生と語ろう!

参加費 500円 先着20名

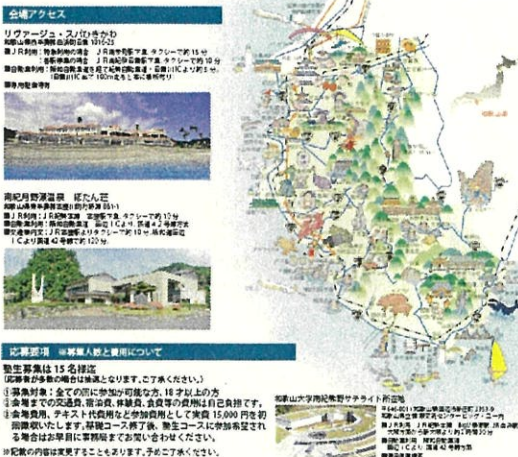
平成29年 3月5日(日)
12:30~13:30(予定)
※12:30からご入場いただけます
会場: ビッグユアーズ修善寺4
和歌山県田辺市新庄1-3353-9
※会場内にカフェレットサービスあり
利用料として800円いただきます。

申込・問い合わせ
TEL: 090-3443-0460 石丸まで(上富田観光コンシェルジュ) メール: kumanokurun@gmail.com
申込期限: 平成29年3月4日(土) 17:00締切
主催: 黒野くるとり 共催: 和歌山大学南紀熊野サテライト、口黒野かみとんたのガイドの会

南紀熊野観光塾 基調講演 (開催地: 白浜町)

1

南紀熊野観光塾第4期パンフレット（基礎講習）



NANKI-KUMANO-KANKOKUJUKU

南紀熊野観光塾

～いま、求められる観光中核人材を考える、次世代の地域経営～

「地域マネジメント」とはどうか？ ～「日本版」DMOを考える！～

第4期生募集【基礎コース】15名

会場アクセス

リバー・ジュ・スパびきわ
和歌山県熊野郡新宮町 191-1
※Jリバー・ジュ・スパびきわの受付は、熊野郡新宮町 191-1 番地にて実施いたします。
※Jリバー・ジュ・スパびきわの受付は、熊野郡新宮町 191-1 番地にて実施いたします。
※Jリバー・ジュ・スパびきわの受付は、熊野郡新宮町 191-1 番地にて実施いたします。

高紀月野温泉 ぽたん荘
和歌山県熊野郡高紀町 110
※Jリバー・ジュ・スパびきわの受付は、熊野郡高紀町 110 番地にて実施いたします。
※Jリバー・ジュ・スパびきわの受付は、熊野郡高紀町 110 番地にて実施いたします。
※Jリバー・ジュ・スパびきわの受付は、熊野郡高紀町 110 番地にて実施いたします。

基礎コース専用申込用紙 (1/4) (17:00 締切) ※必要事項をご記入の上、FAXまたは宛先住所にてお申し込みください。

お名前:	年齢:	性別:	男・女
住所:			
電話番号:	所属:		
電子メール:			

お問い合わせ先

和歌山大学南紀熊野サテライト
〒646-0011 和歌山県和歌山市東町 3393-9
和歌山国立立学交流センター 4F・U内 102 号室
TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978
E-mail: nanki@wakayama-u.ac.jp
http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/
受付時間:10:00～17:00 (月・祝日等休み)

南紀熊野観光塾【基礎コース】日程

基礎コース	11月10日	11月11日	11月24日	11月25日
13:00～17:00	9:30～13:30	13:00～17:30	9:30～13:00	13:00～17:00

会場：リバー・ジュ・スパびきわ 会場：南紀月野温泉 ぽたん荘

※「基礎コース」は、11月10日(水)・11日(木)・11日(金)の3日間で開催いたします。
※「基礎コース」は、11月24日(水)・25日(木)の2日間で開催いたします。

申込締切日：平成28年11月4日(金)17:00迄

参加条件：会場のみに参加するものがある方 (15歳以上の方(学歴等不問))

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 共催：和歌山大学観光学部 後援：和歌山県

南紀熊野観光塾 第4期 もっと良くなる、もっと活きるために！ ～地域資源を活用した地域ならではの魅力的な商品づくり～

南紀熊野観光塾【塾生コース】カリキュラム

塾生コース	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日
13:00～17:30	9:30～13:00	13:00～16:00	9:30～12:00	13:00～16:00

会場：南紀月野温泉 ぽたん荘 会場：南紀月野温泉 ぽたん荘

11月24日(水) 開塾式 12:40～12:50(10分)
会場：南紀月野温泉 ぽたん荘 (いりげんホール)
塾生講演 山田桂一郎氏 17:00～18:20(90分)
「地域経営を支える商品づくりとは？」
活動報告 14:30～15:30(60分)
グループ対話 15:40～16:40(60分)
発表、講師による講評、まとめ 16:50～17:30(40分)
★在塾生夕食交流会 18:30～19:15(45分)
21時～22時「新メニュー登場！海鮮山調理」
★在塾生夕食交流会 18:30～19:15(45分)
★在塾生夕食交流会 18:30～19:15(45分)
★在塾生夕食交流会 18:30～19:15(45分)
★在塾生夕食交流会 18:30～19:15(45分)
★在塾生夕食交流会 18:30～19:15(45分)
★在塾生夕食交流会 18:30～19:15(45分)
★在塾生夕食交流会 18:30～19:15(45分)

11月25日(木) グループ対話 0:30～1:40(70分)
グループ対話 10:50～12:00(70分)
グループ対話 10:50～12:00(70分)
発表、講師による講評、まとめ 13:00～14:10(70分)
塾生講演 山田桂一郎氏 14:30～15:30(60分)
「選ばれぬ商品づくりとは？」
開塾式(基礎コース) 15:30～16:00(30分)

11月26日(金) 塾生講演 山田桂一郎氏 13:00～14:00(60分)
塾生講演 山田桂一郎氏 15:30～16:00(30分)
塾生講演 山田桂一郎氏 16:30～17:30(60分)
塾生講演 山田桂一郎氏 18:30～19:30(60分)
塾生講演 山田桂一郎氏 19:30～20:30(60分)
塾生講演 山田桂一郎氏 20:30～21:30(60分)

11月27日(土) 開塾式 13:00～14:00(60分)
開塾式(塾生コース) 15:30～16:00(30分)

「南紀熊野観光塾」塾長から一言 <趣意の旨>

今年度、和歌山県が推進する「観光立県」の実現に向け、和歌山県観光振興局と連携して「南紀熊野観光塾」を開催することになりました。
この塾では、和歌山県観光振興局との連携により、地域の魅力を最大限に活用し、地域資源を活用した商品づくりを通じて、地域活性化に貢献することを目的としています。
また、和歌山県観光振興局の「和歌山県観光振興計画」に基づき、地域の魅力を最大限に活用し、地域資源を活用した商品づくりを通じて、地域活性化に貢献することを目的としています。
また、和歌山県観光振興局の「和歌山県観光振興計画」に基づき、地域の魅力を最大限に活用し、地域資源を活用した商品づくりを通じて、地域活性化に貢献することを目的としています。

南紀熊野観光塾 塾長 山田 桂一郎 (やまだ けいいちろう)

「南紀熊野観光塾」塾長紹介

山田 桂一郎 和歌山県観光振興局 観光振興課長、和歌山大学南紀熊野サテライト 所長

「南紀熊野観光塾」講師紹介

山田 桂一郎 和歌山県観光振興局 観光振興課長、和歌山大学南紀熊野サテライト 所長

(開催地：白浜町、古座川町)

南紀熊野観光塾第4期パンフレット（塾生講習）

会場アクセス

リヴァージュ・スパひきかわ
 和歌山県熊野郡新宮町 100-25
 車：1時間 徒歩：約15分
 新宮駅前バス停より徒歩約15分
 新宮駅前バス停より徒歩約15分
 新宮駅前バス停より徒歩約15分
 新宮駅前バス停より徒歩約15分

南紀月野温泉 ぼたん荘
 和歌山県熊野郡新宮町 3333-9
 車：1時間 徒歩：約15分
 新宮駅前バス停より徒歩約15分
 新宮駅前バス停より徒歩約15分
 新宮駅前バス停より徒歩約15分
 新宮駅前バス停より徒歩約15分



応募要項

募集人数と費用について
 塾生募集は15名程度
 応募者が多数の場合は抽選となります。ご了承ください。
 ①募集対象：全ての週に参加可能な方、18歳以上の方
 ②会場までの交通費、宿泊費、研修費、食費等の費用は自己負担です。
 ③会場費用、テキスト代費用など追加費用として、単員15,000円を
 別途徴収いたします。基礎コースも参加される場合は合わせて
 20,000円を徴収いたします。
 ※記載の内容は変更するともあります。予めご了承ください。

和歌山大学南紀熊野サテライト
 〒646-0011 和歌山県田辺市白河町 3333-9
 和歌山県立総合文化センター 9号・10号102号室
 TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978
 メール:nanki@wakayama-u.ac.jp
 http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/
 開講時間:10:00～17:00(土・月・祝祭日等休み)

平成28年度南紀熊野観光塾【塾生コース】参加申込用紙

塾生コース専用申込用紙(11/18(金)17:00締切) ※必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送内容でメールでも申し込みください。
 どちらか〇で両方してください

申込用紙の項目：お名前、年齢、性別、住所、電話番号、電子メール、所属、基礎コース、塾生コース

お問い合わせ先
 和歌山大学南紀熊野サテライト
 〒646-0011 和歌山県田辺市白河町 3333-9
 和歌山県立総合文化センター 9号・10号102号室
 TEL:0739-23-3977 FAX:0739-23-3978
 メール:nanki@wakayama-u.ac.jp
 http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/
 開講時間:10:00～17:00(土・月・祝祭日等休み)

NANKI-KUMANO-KANKOJUKU
 南紀熊野観光塾
 ～いま、求められる観光中核人材を考える、次世代の地域経営～

南紀熊野観光塾長：山田 桂一郎

もっと良くなる！
 もっと選ばれるためには？！
 地域資源を活用した地域ならではの
魅力的な商品づくり

第4期生募集【塾生コース】15名

南紀熊野観光塾【塾生コース】日程

基礎コース 13:00～17:00 9:30～16:00	11/24(木) 13:00～16:00	11/24(木) 13:00～16:00	11/24(木) 13:00～16:00	11/24(木) 13:00～16:00
---------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

開校日 平成28年11月24日(木)・25日(金)	開校日 平成29年2月13日(月)・14日(火)
申込締切日 平成28年11月18日(金)17:00	
参加条件 第1～3期塾生及び塾生の紹介者を中心 に全ての週に参加する意欲のある方 18歳以上の方(学生等不可)	

- ※次の方々にお勧めの塾です。
- 観光従事者
 - 観光関係の学生
 - 地方公共団体
 - ジオパーク担当者
 - 若手経営者
 - 観光案内者
 - まちづくり担当者
 - 旅館経営者
 - 地域振興団体
 - 地域住民の方
 - 商工関係者
 - インストラクター
 - 地域づくり担当者
 - ガイド、講師
 - 観光に関心のある大学生・高校生
- 主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 共催：和歌山大学観光学部 後援：和歌山県

南紀熊野観光塾 第4期「地域マネジメント」とはどういうことか？「日本版」DMOを考える！

南紀熊野観光塾【基礎コース】カリキュラム

基礎コース 13:00～17:00 9:30～16:00	11/10(水) 13:00～16:00	11/11(木) 13:00～16:00	11/24(木) 13:00～16:00	11/24(木) 13:00～16:00	11/24(木) 13:00～16:00
---------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------



「南紀熊野観光塾」塾長からひとくくりに語る目的

南紀熊野観光塾とは？
 南紀熊野観光塾は、和歌山県南紀熊野地域の観光振興を目的として、和歌山大学南紀熊野サテライトが主催する、観光従事者や観光関係の学生、地方公共団体、まちづくり担当者、旅館経営者、地域振興団体、地域住民の方、商工関係者、インストラクター、地域づくり担当者、ガイド、講師、観光に関心のある大学生・高校生が参加する、地域資源を活用した地域ならではの魅力的な商品づくりをテーマとした、実践的な研修プログラムです。

「南紀熊野観光塾」塾長紹介

山田 桂一郎
 和歌山大学南紀熊野サテライト 塾長
 和歌山大学観光学部 教授
 和歌山県観光協会 会長
 和歌山県観光振興センター 理事長
 和歌山県観光振興センター 代表取締役

「南紀熊野観光塾」講師紹介

竹村 英志
 和歌山大学南紀熊野サテライト 講師
 和歌山県観光協会 副会長
 和歌山県観光振興センター 代表取締役

北山 隆彦
 和歌山大学南紀熊野サテライト 講師
 和歌山県観光協会 副会長
 和歌山県観光振興センター 代表取締役

(開催地：白浜町、古座川町)

紀州地域学共同研究会 第4回 研究会—2017 春
 紀州地域学研究会
<http://www.kyushu-u.ac.jp/~kyushu-studies/kyushu-studies.html>
 事務局 紀州学研究所
 和歌山大学紀州経済文化研究センター
 紀州学館館内(和歌山)

2017年3月17日(金) 13:30-17:30(受付開始)

2017年3月19日(日) 13:00-14:30(受付開始)

公開講演会
 紀州地域の「うた」と聖地
 [日時] 2017年3月17日(金) 13:30-17:30(13:00受付開始)
 [会場] 和歌山県立情報交流センター Big-U 第2ホール (定員200名 国定市新道町3353-9)
 [入場料] 無料
 [主催] 山本晋介氏(新撰大学・司会)
 「紀州の名所歌壇期—和歌と紀行文を中心に—」
 菅野扶美氏(共立女子短期大学)
 「後白河院と熊野—今昔をめぐって—」
 高橋秀城氏(大阪大学非常勤講師)
 「真言僧の紀州巡礼歌をめぐって」
 渡野文昭氏(東京理科大学非常勤講師)
 「歌道の聖地としての玉津島—歌学史的展開を中心に—」

公開講演会
 佐々木孝浩氏(慶應義塾大学新道文庫)
 「熊野権紙の世界—後鳥羽院が和歌に託した祈り—」
 [日時] 2017年3月19日(日) 13:00-14:30(12:30受付開始)
 [会場] 和歌山県立情報交流センター Big-U 多目的ホール (定員200名 国定市新道町3353-9)
 [講 師] 佐々木孝浩氏(慶應義塾大学新道文庫)
 「熊野権紙の世界—後鳥羽院が和歌に託した祈り—」

紀州地域学共同研究会 第4回 研究会—2017 春

公開講演会
 紀州地域の「うた」と聖地
 [日時] 2017年3月17日(金) 13:30-17:30(13:00受付開始)
 [会場] 和歌山県立情報交流センター Big-U 第2ホール (定員200名 国定市新道町3353-9)
 [入場料] 無料
 [主催] 山本晋介氏(新撰大学・司会)
 「紀州の名所歌壇期—和歌と紀行文を中心に—」
 菅野扶美氏(共立女子短期大学)
 「後白河院と熊野—今昔をめぐって—」
 高橋秀城氏(大阪大学非常勤講師)
 「真言僧の紀州巡礼歌をめぐって」
 渡野文昭氏(東京理科大学非常勤講師)
 「歌道の聖地としての玉津島—歌学史的展開を中心に—」

紀州地域学共同研究会 第4回 研究会—2017 春

公開講演会
 佐々木孝浩氏(慶應義塾大学新道文庫)
 「熊野権紙の世界—後鳥羽院が和歌に託した祈り—」
 [日時] 2017年3月19日(日) 13:00-14:30(12:30受付開始)
 [会場] 和歌山県立情報交流センター Big-U 多目的ホール (定員200名 国定市新道町3353-9)
 [講 師] 佐々木孝浩氏(慶應義塾大学新道文庫)
 「熊野権紙の世界—後鳥羽院が和歌に託した祈り—」

紀州地域学共同研究会 第4回 研究会—2017 春 入場無料・一般参加歓迎

公開講演会
 紀州地域の「うた」と聖地
 [日時] 2017年3月17日(金) 13:30-17:30(13:00受付開始)
 [会場] 和歌山県立情報交流センター Big-U 第2ホール (定員200名 国定市新道町3353-9)
 [入場料] 無料
 [主催] 山本晋介氏(新撰大学・司会)
 「紀州の名所歌壇期—和歌と紀行文を中心に—」
 菅野扶美氏(共立女子短期大学)
 「後白河院と熊野—今昔をめぐって—」
 高橋秀城氏(大阪大学非常勤講師)
 「真言僧の紀州巡礼歌をめぐって」
 渡野文昭氏(東京理科大学非常勤講師)
 「歌道の聖地としての玉津島—歌学史的展開を中心に—」

公開講演会
 佐々木孝浩氏(慶應義塾大学新道文庫)
 「熊野権紙の世界—後鳥羽院が和歌に託した祈り—」
 [日時] 2017年3月19日(日) 13:00-14:30(12:30受付開始)
 [会場] 和歌山県立情報交流センター Big-U 多目的ホール (定員200名 国定市新道町3353-9)
 [講 師] 佐々木孝浩氏(慶應義塾大学新道文庫)
 「熊野権紙の世界—後鳥羽院が和歌に託した祈り—」

